

大阪府立

東大阪

支援学校

タイトル(テーマ)

視線入力装置の活用

東大阪 No. 15 号

令和

3 年 3 月 26 日

取組の内容・授業の様子(学部名)

小学部

取り組み内容とねらい

- ・視覚障がいがあるが、どの程度見えているのか実態把握が難しい児童に対し、視線入力装置を使用して実態把握の参考にする。
- ・視線を動かすことで、音や光等の刺激が起こる教材を活用し、見ることの楽しさを味わう。

授業の様子

今年度7月以降、現在にいたるまで、一回20分程度、週2～3回取り組んできた。

風船割のソフトで、風船に担任や保護者の写真を張り付けて、動機付けを行った。

回を重ねるごとに、視線の奇跡の範囲が広がり、達成スコアも上がった。そのため、スキルに応じて風船の大きさや、壊すことに必要な難易度を挙げながら、活動を進めた。

徐々に難易度を上げ、スコアも上がり、テーマソングが流れると笑顔になるなど、本人も楽しんで活動できている様子である。

成果と今後の課題

明暗以上のものを視覚的にとらえられているのか実態の把握が難しかったが、目の前の動くものに対して意識を持って見ている可能性が考えられることがわかった。

今後は、二者択一などの課題にも取り組み、さらに深く本人の見る力の把握をすすめていきたい。